

山形大学医学部医学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

(1) 学生の確保の見通し

ア 経過

山形大学医学部医学科（以下「本学科」という。）は、新設医学部・医科大学の一期校として昭和48年に地域医療の中核として設立され、以来、既に4,530人の卒業生を世に送り出している。

令和3年度の本学科の定員は、山形県と将来の医師需給予測等に基づき協議・検討した結果、臨時定員により8人を増員し113人であった。

本県における医師確保については、引き続き対策が必要な状況にあり、令和4年度についても山形県と同様に協議・検討した結果、臨時定員により8人を増員することとした。

（詳細は、「山形大学医学部医学科 医学部の収容定員変更の趣旨等を記載した書類」をご参照願いたい。）

イ 定員充足の見込み

本学科では、国の方針に基づき、平成20年から医師確保のための定員増及び平成27年度から地域枠入試を実施してきた。恒久定員105人に対して、臨時定員数及び入学定員数等の推移、及びこれまでの地域枠入試の志願者数及び入学者数は以下のとおりである。

【表1】【表2】

【表1】山形大学医学部医学科の臨時定員数等の推移

	27年度	28年度	29年度	30年度	31・元年度	2年度	3年度
臨時定員数	20人	20人	20人	15人	15人	—	8人
入学定員数	125人	125人	125人	120人	120人	105人	113人
内地域枠入試募集定員	8人	8人	8人	10人	10人	15人※	8人

※令和2年度については、臨時定員によらない山形県定着枠入試（15人）を実施。

【表2】山形大学医学部医学科の【地域枠入試】の実施状況

区分	募集人員	志願者				入学者		
		人数	倍率	県内	県外	人数	県内	県外
27年度	8人	25人	3.1倍	25人	0人	8人	8人	0人
28年度	8人	34人	4.3倍	34人	0人	8人	8人	0人
29年度	8人	31人	3.9倍	31人	0人	8人	8人	0人
30年度	10人	31人	3.1倍	31人	0人	10人	10人	0人
31・元年度	10人	38人	3.8倍	37人	1人	10人	10人	0人
2年度・県内枠	10人	30人	3.0倍	30人	—	10人	10人	—
県外枠	5人	30人	6.0倍	—	30人	※4人	—	※4人
3年度	8人	27人	3.4倍	27人	0人	8人	8人	0人

※後期日程において募集人員を充足している。

【表2】のとおり、これまでの地域枠入試の実績から、志願倍率は例年3倍を超えており、今回8人の増員を行っても、志願者及び入学者は適切に確保できると見込んでいる。

関連して、【表3】のとおり、本学科の過去5年間の入学定員全体に対する志願者数の倍率は、入学定員の増減にかかわらず常に良好な状態である。

【表3】本学科の過去5年間の入学志願状況等

年度	入学定員	志願者数	志願倍率	入学者数	定員充足率
平成28年度	125	692 【95】	5.5	125 【18】	100%
平成29年度	125	660 【101】	5.3	125 【19】	100%
平成30年度	120	637 【102】	5.3	120 【24】	100%
平成31年度	120	635 【126】	5.3	120 【33】	100%
令和2年度	105	565 【97】	5.4	105 【24】	100%
令和3年度	113	496 【79】	4.4	113 【17】	100%

【 】内は山形県内で内数

(2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

山形大学全体の取組として、「オープンキャンパス」や、「高校教員対象の説明会（会場：東北・北関東）」を開催するとともに、首都圏及び宮城県において開催される民間企業等主催による「医学科志願者を対象とした説明会」等に参加し、学生の確保に努めている。

また、県内の高校1年生を対象として、医師としての職業への理解を深め、魅力を伝えることで、医学部への進学を目指す高校生を増やすこと及び参加者のモチベーションの向上に役立つことを目的とした「医師体験セミナー」を平成23年度から山形県健康福祉部地域医療対策課と協力して開催している。また、平成27年度から、医師を志す県内の高校2年生を対象とした「医進塾」を山形県教育庁高校教育課と協力して開催しており、最先端医療や地域医療に関する講話を聞く機会や班別に課題研究型学習に取り組む機会を設け、将来地元で医療に携わる決意を強固にするとともに、参加者同士が刺激し合いながら、目標に向かって最後まで頑張ろうという連帯感の醸成に取り組み、本学科の入学者増に資する施策を行っている。

2. 人材需要の動向等社会の要請

(1) 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的 (概要)

【医学部の目的】

生命科学の基礎及び臨床分野の教育・研究，医療現場における実践教育を通して幅広い視野と探求力を教授し，医学・医療の進歩に対する貢献や地域医療の実践を通じて国民の健康を守るという社会の要請に対して，豊かな人間性に基づき倫理観，責任感，使命感を持って対応できる医療人の育成を目的とする。

【医学科の教育目標】

山形大学及び医学部の教育目標を踏まえ，教育プログラム（医学）では，地域に根ざした国際的視野を持ち，知識や技能を自ら学び，考え，活用し，さらに発展させる能力を涵養し，生命の尊厳を理解し，高い倫理観を身に付け，多様な人生観を受け入れることができる人間性豊かな，高いコミュニケーション能力を持つ医師を育てることを目標とする。

【卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）】

山形大学及び医学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のもと，教育プログラム（医学）では医学・医療の今後の発展を担う優秀な医師，医学研究者を育成する観点から，基盤共通教育及び学部での専門教育を通じて，以下に示す知識・態度・能力を獲得した学生に「学士（医学）」の学位を授与する。

1. 豊かな人間性と社会性

- ① 良き医師及び研究者としての素養を培うため，文化や社会，自然も含めた幅広い学問分野に関心を持ち，自主的，自律的に学び続けることができる。
- ② 医師として求められる，生命の尊厳への理解と，医学的課題に立ち向かおうとする意欲（Challenge），医学研究や医療に従事し社会貢献（Contribution）するために不可欠な高い倫理観と使命感を持っている。
- ③ 地域医療の重要性を含め医療・医学に関する社会的なニーズや課題に関心を持ち，それらに対する自己の意見を持ち，筋道を立てて説明することができる。
- ④ 社会の一員として円滑な協働（Cooperation）を行う上で必要な意思疎通及び相互理解・尊重の重要性を理解している。

2. 幅広い教養と汎用的技能

- ① 医学や医療に関する社会の仕組み，生活環境，健康や医療を取り巻く様々な課題について学び，それを基に判断し，行動できる。
- ② 国内外における社会と人々の生活の変化に関心を持ち，膨大な情報の中から正しい情報を取捨選択し，現代医療の役割，機能，責務を理解できる。
- ③ 多職種が関わる医療現場で活躍できるよう互いに連携・協働するためのコミュニケーション能力を持っている。

3. 専門分野の知識と技能

- ① 医学全体の基盤となる基礎医学について、臨床医学の理解と問題解決に繋がる専門的な基礎知識を持っている。
- ② 人体各臓器にみられる疾病や創傷の原因や仕組み、またそれらの診断・治療を理解している。
- ③ 実際の診療に必要な基本的診断能力や鑑別診断能力を身に付けている。
- ④ チーム医療、医療安全、患者中心の視点、コミュニケーション能力など、医師としての職責や普遍に求められる知識と技能を身に付けている。

(2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

以下については、定員を増員するための社会的背景及び人材需用の客観的なデータである。

本学科は、昭和54年に第1期生を医師として輩出して以降、着実に山形県内の医療を支える医師を養成し、定着を図ってきた。その一方で、山形県の人口10万人当たりの医師数は、全国平均を下回っており、かつ、地域ごとに偏在している状況下にある。さらに、山形県の100km²当たりの医師数は、全国平均の約3分の1と大きく下回っている。【表4】

【表4】

人口10万人当たりの医師数と面積当たりの医師数の比較

	医師数 (人)	人口10万人 当たりの医師数		面積 (km ²)	面積当たりの医師数 (人/100km ²)	
			順位			順位
	(a)	(b)	(c)	(d)	(e) = (a)/(d) × 100	(f)
全国	327,210	258.8	—	377,974.17	86.6	—
山形	2,614	239.8	32	9,323.15	28.0	44

資料：厚生労働省平成30年「医師・歯科医師・薬剤師調査」

国土交通省 国土地理院平成30年「全国都道府県市区町村別面積調」

また、全国ベースで医師数の多寡を統一的・客観的に比較・評価するための指標として導入された「医師偏在指標」【表5】においては、三次医療圏単位では全国40位、二次医療圏単位で比較しても、医療施設が集中している医師多数区域（村山地域）と全国最下位付近に位置する医師少数区域（最上地域及び庄内地域）が設定されるなど、医師不足と医師偏在が顕著である。また、10年前と比較し、50代以上のベテラン医師が増加、30代から40代の若手・中堅医師が減少し、平均年齢が上昇していることも、今後の医療体制を維持する上での課題である。【表6】

【表5】

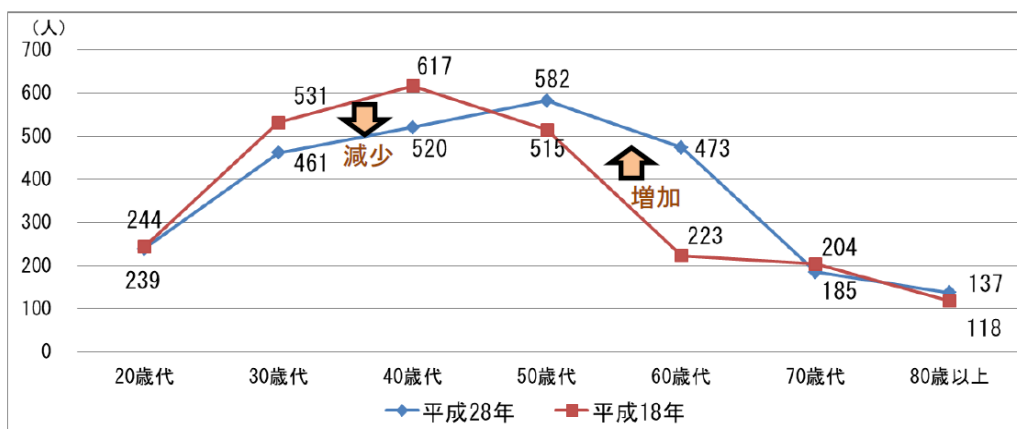
医師偏在指標

医療圏	三次医療圏	二次医療圏			
医師偏在指標	山形県	村山地域	最上地域	置賜地域	庄内地域
	191.8	233.9	110.6	166.3	156
全国順位	40位	71位	334位	208位	241位
	医師少数 都道府県	医師多数 区域	医師少数 区域	(どちらで もない)	医師少数 区域

厚生労働省 医療従事者の需給に関する検討会 医師需給分科会

【表6】

山形県内医師の年齢構成の推移



山形県医師確保計画 (厚生労働省 平成28年医師・歯科医師・薬剤師調査)

本学科は、県内唯一の医師養成機関として、このような地域の人材需用の動向を踏まえ、上記(1)のもと、地域医療を担う医師を養成するためのカリキュラムを構築し、最前線の地域医療の講義及び過疎地区における医療現場の見学、さらには、クリニカルクラークシップの一環として県内の地域医療の現場に出向き、特定機能病院では体験できない症例等を体験させる等の取り組みを行っている。結果、県内で卒後臨床研修を行った者は、例年50名程度で推移しており、県内への医師定着に資している。【表7】

【表7】 山形県内で卒後臨床研修を行った者の数

卒業年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
計	46	51	49	48	43	43

当該年度1年目の者について記載